

活動をふりかえって

前部門長(第90期) 星 朗 (東北学院大学)

東日本大震災の被災地は元より、社会では今すぐ役立つ技術が求められています。このような背景にあって、岩手県花巻市に羅須地人協会を設立し、地元の農民と一緒に実践的農業や農民芸術に取り組んできた、岩手の風土が生んだ科学の心を持つ詩人・童話作家である宮澤賢治を思い出します。東日本大震災から2年が経過し、ニュースでは「復興」という言葉が多く聞かれるようになり、被災地から遠く離れた地域では記憶が薄れてきています。しかし、被災地では現在もお復旧・復興作業が続けられている状況にあります。



そのような中、技術と社会部門では、第90期におきましても『人と技術と社会』を部門の核として“機械工学を基礎とした技術”と“我々が生きている社会”との懸け橋となる活動や、文理融合などの分野横断的な対外的取り組みを行って参りました。

東日本大震災以降、改めてエネルギー問題が表面化していますが、当部門では将来を担う高校生・大学生を対象として「第5回新☆エネルギーコンテスト」を開催し、子どもや一般の方々を巻き込んで持続可能なエネルギーについて考える取り組みを実施しました。さらに「第2回低温度差スターリングエンジン競技会・発表会」を開催し、早期の技術教育・工学教育として着実な成果をあげております。

部門の目玉企画である「イブニングセミナー」では、会員のみならず会員以外の方々への情報発信の場として、都内の銭湯を会場にセミナーを開催するなど、知的好奇心をくすぐるジャンルにとらわれないタイムリーな話題についての講演が好評のもとに行われ、第90期において通算158回の開催を数えました。

貴重な機械遺産の認定と後世への継承に取り組む当部門の「機械遺産委員会」では、第90期におきましても「機械の日」に発行される小冊子「機械遺産」の執筆編集をはじめ、年次大会において市民向けの機械遺産パネル展示を通じて社会への発信を行いました。昨年度は“ウォシュレット”や“リコピー”など身近な製品が機械遺産に認定されてマスコミに大きく取り上げられ、「機械遺産」は一般の人々にも認知されるようになりました。

部門活動の柱の一つである部門講演会は、地方組織の活性化を目指して全国各地で開催して

おりますが、第 90 期には秋田工業高等専門学校を会場に東北地方で初めて開催しました。また、部門主催の第 6 回目となる国際会議 ICBTT (International Conference on Business and Technology Transfer) が、昨年度、英国ニューカッスル大学ビジネススクールで開催されました。

以上、第90期の技術と社会部門では、異分野のエンジニア間での交流や、エンジニアと一般市民との活動などを通じて、エンジニアリング・コミュニケーションを実践して参りました。

本年度は、当部門でのご経験が豊富なベテランの池森 寛(西日本工業大学)部門長と高田 一(横浜国立大学)副部門長に引継ぎを致しました。部門登録の期間も浅い小職では、部門運営の面で会員各位に多々ご迷惑をお掛けした事と存じますが、皆様から頂きました暖かいご支援とご教示により大きなトラブルもなく任期を終えることができました。最後になりましたが、事務局として過分のご助言とご支援を頂きました曾根原雅代氏に、心より感謝申し上げます。

部門の益々の活性化と発展を願いつつ、部門長退任のご挨拶とさせて戴きます。誠にありがとうございました。

日本機械学会技術と社会部門ニュースター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースターNo.29

(C)著作権:2013 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門